

学校だより

令和 8 年度 7 月号

共に学び
明日が楽しみになる学校

しもこ

川崎市立下小田中小学校

「好き」を育み、「得意」を伸ばす

こうちょう あんざい ようこ
校長 安齋 陽子

今年は、久々に日本の梅雨を感じる日々です。昨年の今頃は、暑さとたたかっていたことを思い浮かべ、年によってこんなに違うものかと、改めて自然にはかなわないことを痛感しています。雨が続く中でも、子ども達は教室での遊びを工夫して休み時間を過ごし、雨の合間に実施できたプールの学習で歓声をあげ、生き生きと毎日を過ごしています。

先月から、5年生のハケ岳自然教室をスタートに、6年生の都内見学・こころの劇場、4年生のゴミ処理センター見学、3年生のスーパー見学、1・2年生の栽培活動など、様々な心が動く体験の機会がありました。こころの劇場の帰り道「また別のミュージカルも観てみたい!」と興奮気味に語る子ども達の言葉に、「好き」に出会えたのかも…と嬉しくなりました。

文部科学省は次の学習指導要領の改訂に向けた基本方針として「好き」を育み、「得意」を伸ばすという教育理念を掲げています。子ども達が自分の興味・関心を突き詰めることを原動力にして、主体的な学びや生き方につなげることを目指すものです。これからの時代をよりよく、そして幸せに生きるためには、自分の「好き」や「強み」を自覚し、心動かされるもの、やりたいことなど「志」が、ますます必要になります。近年、AIの進歩により、知りたいことを尋ねれば瞬時に答えや解決方法が示される時代になりました。これからの子ども達には「正解を知っている」ことだけではなく、「自分は何をしたのか」「何を大切にしたいのか」を考え、自ら選び、決めて行動する力がますます求められるでしょう。どのような問いをたてるのか、何に違和感を持ち、何に価値をおくかなどは、AIには決めることができないからです。

これらの力は、失敗や成功を経験し、友達と協力する活動や地域の方々との関わりなど、具体的な体験を通して少しずつ育まれていきます。一人一人が「好き」「やってみたい」と思えることに出会い、夢中になって取り組む中で、自信や意欲をもつことができ、その積み重ねが、自分らしい強みとなって、未来を切り拓いていく力になっていくと考えています。

学校は知識を学ぶ場であるとともに、様々な体験を通して、自分自身をみつめ、成長する場でもあります。子ども達が多くの経験を重ね、自分で考え、自分で決めながら進んでいけるように、教職員一同、一人一人の「好き」と「得意」を大切に育んでまいります。保護者・地域の皆様にも、引き続き温かいご理解とご協力をお願いいたします。